



MU PROJECT

STARTUP the CHOIR

2018-19

歌うというプロジェクト

——「合唱団＝合唱をするための組織」に必要な要素を見直し、考える。

合唱団は組織です。合唱団には生き立ちも身を置く環境も異なる仲間が集まります。現在、ムウ・プロジェクト（ムウプロ）は、合唱団員が音楽をするために最も優先して取り組むべき課題を「組織づくり」だと考えています。それは決して音楽をないがしろにするということではありません。音楽をより尊重するためにストレスのない組織こそが、本来の合唱団であるという考え方です。

こんなことはありませんか？

ムウプロを立ち上げたのは、過去に高校や大学などで合唱団に所属していた経験のある人たちです。過去の経験を活かして、理想とするより良い合唱団のあり方を日々工夫しています。

気づいたら 次のステージが決まっていた

突然、何の前触れ無く決まる本番。ひどい時にはきちんと周知すらされないことも。頑張りましょうと言われても、こちらにも都合が……。

練習以外にすべきことが多すぎて 練習に集中できない

練習場所取り、ホールとの打ち合わせ、資料の準備……。書類書類書類……。やるが多すぎて練習に来てても音楽に集中できない！

毎回の本番を こなしているだけの気がする

コンクールが終わったら演奏会、演奏会が終わったらフェスティバル……。活動が充実しているのは確かに良いことのように思うけれど……。

理想は語り合うが 団の活動に反映されない

ああしたい、こうしたい。飲み会では熱心に語られる合唱や合唱団の今後についての話、きちんと活動に活かしているのだろうか？

理 由

ひとの居る所には歴史があります。歴史という大きな物語は、先人たちの小さな歴史が集積してできたものです。私たちは、私たちと同じように悩み苦しみながら生きた先人たちの歩みの先に立っています。一方で、私たちそれぞれが有する小さな物語もまた後世へ歴史をつなぐために必要なものです。私たち個人の存在は歴史によって否定されるものではありませんし、歴史もまた私たち個人によって否定されるものではありません。これらふたつの要素は完全に対等な存在であるべきです。

歌とは私たち人類全体が共有する歴史のひとつです。

歌は言葉の先にあります。ひとが言葉を旋律にのせて歌ったことには、何らかの理由があったはずです。労働のため、祈りのため、享楽のため、誰かに向けてうたわれた歌や自らに向けてうたわれる歌。その理由は千差万別ですが、どれもひとが生み出した、否定することや優劣をつけることのできない尊い理由です。歌はそうした理由の積み重ねによって生み出されてきました。

ムウプロが目指している音楽は、決してこれまでの合唱の歴史や伝統を否定するようなものではありません。しかし、歌うことが安易な過去の「再現」に終始してしまうことは、私たちの本意ではありません。

演奏にあたっては、詩人が言葉を綴った理由や作曲家が音を紡いだ理由に立ち返り、必要があればそれらの要素を現代に合わせて再構築します。演奏の解釈や新たな表現方法は常に物議を醸す話題ですが、古着を仕立て直すように、過去に生み出された作品の歌唱形態や表現方法を吟味することで、過去の歌がその面影を残しながらも新しい歌として私たちの前にあらわれるかもしれません。

ムウプロは歌う理由にこだわります。過去の作品たちが生まれた理由に向き合い、ほかでもない私たちとして音楽を発信していくこと、そうした作品の系譜に新たな「理由」を提案し続けることがムウプロの使命です。

最高の音楽を最高の手段で

ムウプロの目指す音楽はいかに実現可能でしょうか。

第1に、ムウプロは過去の偉大な遺産である様々な作品を高水準で演奏することを目指します。楽譜に刻まれた詩人・作曲家を然るべく音楽へ落とし込み、いわゆる「名盤」と称される演奏を追求します。ここでのひとつの手段はレコーディング活動です。多くの聴衆が何度でも聴きたくなる演奏を記録に残し、聴くたびに新たな発見を与えることを目指します。

第2に、ムウプロは私たちが生きる「いま」を切り取り音楽にすることを目指します。いまこの時代に生きているからこそ感じることを、いまを生きる私たち自身が歌うことが持つ効果を信じています。「いま」を切り取るために、ムウプロは意欲的な新曲初演を行います。多様な詩人・作曲家・アーティストと共に、いま感じていることを作品に凝縮し、より積極的な音楽の創造を行います。これは「名盤」の発想とは異なると思う人もいかもしれませんが。確かに、その瞬間や場所、状況を共有することにより生まれる最高の音楽体験があるでしょう。しかし、名盤は最初から名盤として生まれてくるのでしょうか。過去の偉大な作品も生まれた時はすべて新しかったのです。いまつくり上げる最高の音楽を積み重ねていくことでこそ、合唱文化は継承されていくと信じています。

名盤となるようなレコーディングや新曲の初演には確かな技術が必要となるでしょう。ムウプロはボイストレーニングで基礎となる声を磨きつつ、常に必要とされる演奏技術を判断し、慣習化しない訓練を積み上げることで創りたい音楽の実現を目指します。また、ムウプロは常任指揮者（音楽監督）を有しません。少数の傑出した音楽観を具現化することよりも、多数の団員がそれぞれ得意な面を十分に発揮し互いに補い合って音楽を創りあげの方が、結果としてより理想的な音楽に近づくことができると考えているためです。もちろん、団員のみで歌い続けること自体に固執してはなりません。指揮者という役割も演奏において欠かすことのできない重要な要素です。多くの楽団のように、演奏会や数年を単位とした有期での客演指揮者を招聘することもひとつの手段となるでしょう。

情熱のもとに掲げた目標は、理性的な手段により達成されねばなりません。すべては創りたい音楽のために。ムウプロはつねに最適な手段を選択します。



合唱団は、合唱団員のもの。
団員の音楽を主体的に発信できる環境があってこそ
合唱団本来の力を発揮します。

point
1 部局制度による
ボトムアップ型運営

point
2 Slackを活用した
効率的な運用環境

point
3 コンセプトのある活動を
中長期計画

point
1 部局制度による
ボトムアップ型運営 **強固な「組織」になるために**

ムウプロは、他の多くの組織が採用している部局制度を導入しています。ムウプロの部局制度において、全ての団員は4つある部局のいずれかに所属し、それぞれ興味があることや得意な分野で業務を行います。部局長で構成される執行部会議の決定事項は、業務の担当部局決定や部局間の調整事項に留まり、トップダウン型組織からの脱却をはかります。

また、業務を部局というグループに割り振ることは、業務の属人化を避けプロジェクトがより円滑に進むことにつながります。専門家集団は組織の理想の形のひとつですが、私たちが目指すべきは「合唱」の専門家であって「練習場所の抑え方」や「見やすい進行表の作り方」の専門家ではないはずです。これらはいつでも代替可能な業務であるべきです。

あくまで趣味のひとつである合唱活動が、個人のプライベートな時間を過度に圧迫してしまうことは避けなければなりません。複数人による業務分担と軽減は、合唱団において必須事項のひとつと言えるのではないのでしょうか。

総務部

ムウプロの全団員に関わる業務を担当します。練習日程・場所の決定、出席調査、入退団の管理など、内容は多岐にわたります。

広報部

団外に向けた情報発信や練習見学会（新歓）の企画といったムウプロの活動を内外に周知するための業務を行います。このパンフレットも広報部が主導となって制作したものです。

団員総会

ムウプロの最高意思決定機関です。年に1度行われる定期総会には全団員が出席し、決算報告、予算や各部局の年度方針の承認、中期計画の見直しなどが行われます。

技術部

コンサートマスターが所属しています。総会で承認された技術方針に則り、練習のマネジメントや選曲等を行います。（ムウプロのコンサートマスターは作品ごとの当番制を採用しています）

経理部

日々の活動に必要なお金の管理、半期ごとに行われる会計監査書類の作成・提出、年度予算および決算書類の作成などを行います。

ITを駆使した団内コミュニケーション

ムウプロでは団内のコミュニケーション（情報伝達）にEメールが使われることは一切ありません。団員間の連絡は殆ど全て、Slack（スラック）というチャットツールで行われます。

ご存知のように、合唱団の日々の活動に要する業務は意外と膨大です。そして、週に一度しかない練習時間内でそれらに関する議論や作業を行なうにはあまりに時間が足りません。しかしながら、メールというフォーマットはそうした議論にはとことん不向きです。メーリングリストに賛成と反対の返信が一度に届いて議論が膠着してしまい、結局「次回の練習後に集まって話しましょう」ということになってはせっかくのツールを活用する意味がありません。

Slackでは、部局や目的ごとのチャンネル（チャットルーム）を設置しています。ムウプロでは、全てのチャンネルを公開し閲覧可能とすることで、団員は誰でも必要な情報にアクセスすることができます。「自分の知らないところで合唱団の方針が決まっていた」ということはもうありません。また、練習連絡や出欠状況の報告、外部から届いたメールを指定のチャンネルに転送するといった単純な作業を自動化することで団員の負担軽減にも一役買っています。

Slackの他にも、タスク管理ツールTrelloといった最新のITツールを活用することで、より効率的で便利な環境構築を日々模索しています。



コミュニケーションツール



タスクの管理



プロジェクト 考え続ける活動計画

コンクールや演奏会、フェスティバルへの参加など、合唱団の活動はその気になればいくらでも忙しくなります。初めは悩みに悩んで出場を決めたコンクールも、いつしか「去年と同じように」ルーチンとして出場するようになっていませんか？ ムウプロは、常設の団体だからできることを重視したいと考えています。常設ならではの利点を活かすためには、1回ごとの本番を「こなす」だけでなく、もっと広い視野で合唱団の活動を見据える必要があります。ムウプロでは、5年間で1期とした中期計画を策定し、年度ごとの団活動の指針としています。本番に振り回されずに、日々の活動の成果を着実に積み上げられることを目指しています。

第1期

2015-2019

歌唱技術を向上
歌い続ける体制を確立する

第2期

2020-2024

新作委嘱や自主公演を精力的に行う
団運営において資金的自立を果たす

第3期

2025-2029

「合唱」の枠組みにとらわれず
幅広い創作活動を行う

結成した2015年より始まった第1期中期計画（2015-2019）では、確かな技術力と強固な組織体制、社会的評価の獲得を目標としています。一方で、2020年以降の第2期へ向けた準備も着々と進めています。

入団案内

現在ムウプロでは、共に歌う仲間を募集しています。音楽が好き、男声合唱が好き、何かを考えたり企画を実行に移ることが好きな方など、どなたでも歓迎。団員全員が自分の好きなことで活躍できる団体を目指しています。

興味のある方は、ムウプロ広報部までご連絡ください！

Mu Project 広報部
pr@mu-project.jp

活動概要（2018年10月現在）

練習日	原則日曜日13-17時（出席状況によっては土曜や祝日。平日練習はなし）。 うち1回を優先して出席するインテンシブ練習に設定。 毎月1回、田中豊輝さんによるボイトレ（2時間）を実施。
練習場所	東京都内（主に千代田区、台東区）
活動費用	入団費 なし 月団費 3,500円（学生は2,500円） ※3ヵ月ごとに銀行振込で支払 その他 楽譜購入費（実費） 合唱連盟行事等の参加費（実費）

これからのムウプロ（活動予定）

2018年 11月10日	第18回東京男声合唱フェスティバル 「瞬き」
2019年 2月	東京春のコーラスコンテスト 2019
11日	ジャズ・ポップス部門 出場予定
23日	クラシック・現代部門 出場予定
9月	第74回東京都合唱コンクール 出場予定

これまでのムウプロ（活動経歴）

2015年 4月	創団
11月	第15回東京男声合唱フェスティバル 出場 「どちりなきりしたん 第4楽章」
2016年 2月	東京春のコーラスコンテスト 2016 クラシック・現代部門 入賞 「流星」「噴水」
9月	第71回東京都合唱コンクール ユースの部 出場 「第2ヴォカリーズ」ほか
2017年 2月	東京春のコーラスコンテスト 2017 フォルクローア部門 入賞／クラシック・現代部門 入賞
6月	Ensemble Bel Homme & Mu Project ジョイントコンサート「夏がはじまる音」開催
9月	第72回東京都合唱コンクール 室内合唱の部 銀賞 「会津磐梯山」ほか
11月	第17回東京男声合唱フェスティバル 出場 「星屑の街」
2018年 2月	東京春のコーラスコンテスト 2018 ジャズ・ポップス部門銅賞（3位）／クラシック・現代部門 銅賞（3位）
5月	おにいさんコーラスフェスティバル 2018 開催（男声合唱団 東鶴、Ensemble Crane との共催）
9月	第73回東京都合唱コンクール 室内合唱の部 金賞 「Fragments—特攻隊戦死者の手記による—（短縮版）」

